

【開催報告 (国際研究連携、ベトナム)】

第 6 回日本・ベトナム共同ワークショップを開催しました

国土技術政策総合研究所 (国総研) とベトナム交通省交通科学技術研究所 (ITST) は、平成 22 年 (2010) 年 5 月に道路及び交通分野等における国際研究協力を実施していくことに合意し、これに基づき、平成 25 (2013) 年 11 月 1 日に第 6 回共同ワークショップを東京で開催しました。

(開催内容)

今回の共同 WS は、ITST 及び NILIM の間でそれぞれ合意した各研究ロードマップに基づくこれまでの研究連携活動 (活動経緯は最終ページを参照) の一環で、「Thang Long 橋の舗装修復に関する検討」について共同 WS を開催しました。

参加者は、日本側から国総研研究者の他、(独) 土木研究所、関連民間技術者等が参加し、ベトナム側から、ITST の Chinh Vu Duc 副所長をはじめとした研究者 4 名が参加しました。



第 6 回日本・ベトナム共同ワークショップの様子

(各セッションの討議概要)

①ベトナムのわだち掘れ対策に関する検討

両国のわだち掘れの現状と対策について情報交換が行われ、ベトナムにおけるわだち掘れ対策に関する技術基準策定に向けた議論が行われました。

その結果、ベトナムでの適用条件や交通対策も必要であることから、新たにわだち掘れ対策を研究ロードマップに加え、今後も情報交換や技術的な支援を行うことで合意しました。

②Thang Long 橋の舗装修復に関する検討

ベトナム側からポリマー改質アスファルト SMA 混合物を用いた Thang Long 橋の補修工事に関して、接着層に Novabond を適用し、施工後は良好であるとの報告がありました。また今後の補修計画では日本の補修技術の適用を検討することで合意しました。

③ポーラスアスファルト舗装の適用性に関する検討

ベトナム側から高速道路本線上で計画している、ポーラスアスファルト舗装の試験施工について報告がありました。試験施工後に1年間追跡調査を行い、供用性が確認できれば、導入を進めていくたとの見解が示されました。

(参考) 活動経緯

国総研と ITST は、平成 22(2010)年 5 月に交わした研究連携に関する覚書に基づき、これまでに以下の通り共同 WS 等を開催しています。

開催年月	概要
平成 22 年(2010)5 月	交通省交通科学技術研究所(ITST)との研究連携覚書の締結
平成 22 年(2010)9 月	第 1 回共同 WS 開催 (ハノイ) (ベトナム国交通省副大臣他、港湾部隊含む)
平成 23 年(2011)2 月	第 2 回共同 WS 開催 (ホーチミン等) (ロードマップ合意)
平成 23 年(2011)6 月	ロードマップに基づく Study Tour in Japan 実施
平成 23 年(2011)7 月	第 3 回共同 WS 開催 (ハノイ) (ロードマップに基づく活動詳細議論等、研究室新設関連、暴露試験の連携合意)
平成 24 年(2012)1 月	第 4 回共同 WS 開催 (ハノイ) (ロードマップに基づく 2011 年度及び 2012 年度活動内容の発表と議論、並びに次年度中間報告会開催に向けた事前調整、文書確認 等)
平成 24 年(2012)6 月	3 カ国中間報告ワークショップ開催 (つくば他) (各研究ロードマップに基づくこれまでの研究連携活動について、研究実務者が共同で活動状況及び成果について中間報告を開催)
平成 24 年(2012)10-11 月	第 5 回共同 WS 開催 (ハノイ) (5 つの研究ロードマップに基づくこれまでの研究連携活動について、現在までの進捗状況の確認や意見交換)

以上